沖縄キリスト教短期大学

２０１９年度　後期

授業評価アンケート結果報告書

2020年 6月5日

IRセンター

はじめに

2019 年度後期の授業評価アンケートは 65 科目、129 クラスについて分析を行った。分析に供された評価表は、2,954 件であった。評価は 5 段階法を採用しており、1 点から徐々に上がり、5 点を最高の評価としている。ただし、質問 4、6 においては、各数値に時間、割合をそれぞれ配置している。

学生による数値的回答による評価と自由記述による評価の 2 点についてみていく。

【文章内の表・グラフについて】
文章内に記載の表やグラフは、次のようになります。

・短大の全ての授業を総合した評価を「全学科」、各科・系の授業を評価したものをそれぞれ「教養教育」「英語科」「保育科」として、回答（選択肢）の割合（%）を表で示した。
・先に述べた回答（選択肢）割合を、積み上げ 100%横棒グラフで示し、「選択肢 4 及び 5」と回答した割合について前年度同期との差分を横棒グラフで示す。

1. 数値的回答による評価

学科名：全体	65 科目　129 クラス	回答数：2,954

▼ 全学科

記述統計量a

	度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
Ⅰ 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	100.0%	55.4%	33.6%	9.9%	1.0%	0.1%	4.43	.719
2.技能や表現等を身につけることができた	100.0%	51.7%	34.8%	12.2%	1.1%	0.1%	4.37	.747
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	100.0%	52.4%	33.2%	12.7%	1.3%	0.5%	4.36	.785
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	100.0%	57.5%	29.2%	11.7%	1.3%	0.4%	4.42	.777
Ⅱ 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	100.0%	62.8%	26.9%	9.1%	1.1%	0.2%	4.51	.720
2.授業を乱す行為をしなかった	100.0%	66.2%	22.5%	9.9%	0.8%	0.6%	4.53	.752
3.授業に積極的に参加した	100.0%	59.5%	26.2%	12.1%	1.7%	0.5%	4.43	.805
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	100.0%	10.4%	5.5%	15.6%	33.4%	35.1%	2.23	1.270
5.授業での遅刻はなかった	100.0%	72.6%	13.9%	8.1%	3.3%	2.0%	4.52	.923
6.授業における出席状況（今日現在）	100.0%	42.4%	31.5%	17.6%	6.7%	1.8%	4.06	1.011
Ⅲ 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	100.0%	62.9%	24.6%	10.4%	1.5%	0.6%	4.48	.788
8.授業の開始・終了時間は適切であった	100.0%	73.0%	19.4%	6.8%	0.6%	0.2%	4.64	.651
9.授業の進め方にメリハリがあった	100.0%	71.1%	20.1%	7.1%	1.4%	0.3%	4.60	.710
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	100.0%	67.8%	21.0%	9.2%	1.6%	0.5%	4.54	.766
11.教員として相応しい発言や態度であった	100.0%	74.2%	18.2%	6.7%	0.6%	0.3%	4.65	.657
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	100.0%	69.8%	21.1%	8.1%	0.9%	0.2%	4.59	.693
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	100.0%	71.3%	19.6%	7.7%	1.1%	0.3%	4.60	.706
14.授業の進度は、適切であった	100.0%	73.1%	18.3%	7.1%	1.0%	0.4%	4.63	.694
15.学んだという達成感が得られた	100.0%	68.3%	20.3%	9.1%	1.3%	0.9%	4.54	.787

質問 4 の回答欄（⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間）

質問 6 の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

Ⅰのカテゴリの 4 つの自己評価をみると、平均値も高く選択肢 4 及び 5（以降「選択肢 4、5」と記載）の肯定的な評価割合がいずれの項目も 85%以上あり、これにより評価は高いといえる。

質問 4「予習復習時間」の質問を除いた 24 個の質問において平均値が 4.0 以上であった。また、選択肢 5「大いにそう思う」と答えた割合が 25 個の質問のうち 23 個において 50%以上と全体を通して肯定的な評価が多い。このような傾向は前期・後期ともに同様にみられる。また、予習復習時間が少ない傾向は、若干の変動はあるものの例年変わらない。

今回の結果では「1 週間あたりの予習復習の合計時間」が 1 時間以内と答えた割合が。全体で 68.5%と高い。他方 3 時間以上と答えた割合は 10.4%と低い。この長期にかかる問題は、学生個人の努力だけで片付けるのではなく、カリキュラムの仕組みとして確立していく必要がある。また、

学生の皆さんには、日頃から ActiveAcademy でシラバスやルーブリックを確認して、自分の学ぶ分野、授業の概要を把握することを習慣化するといい。

▼全学科（グラフ）

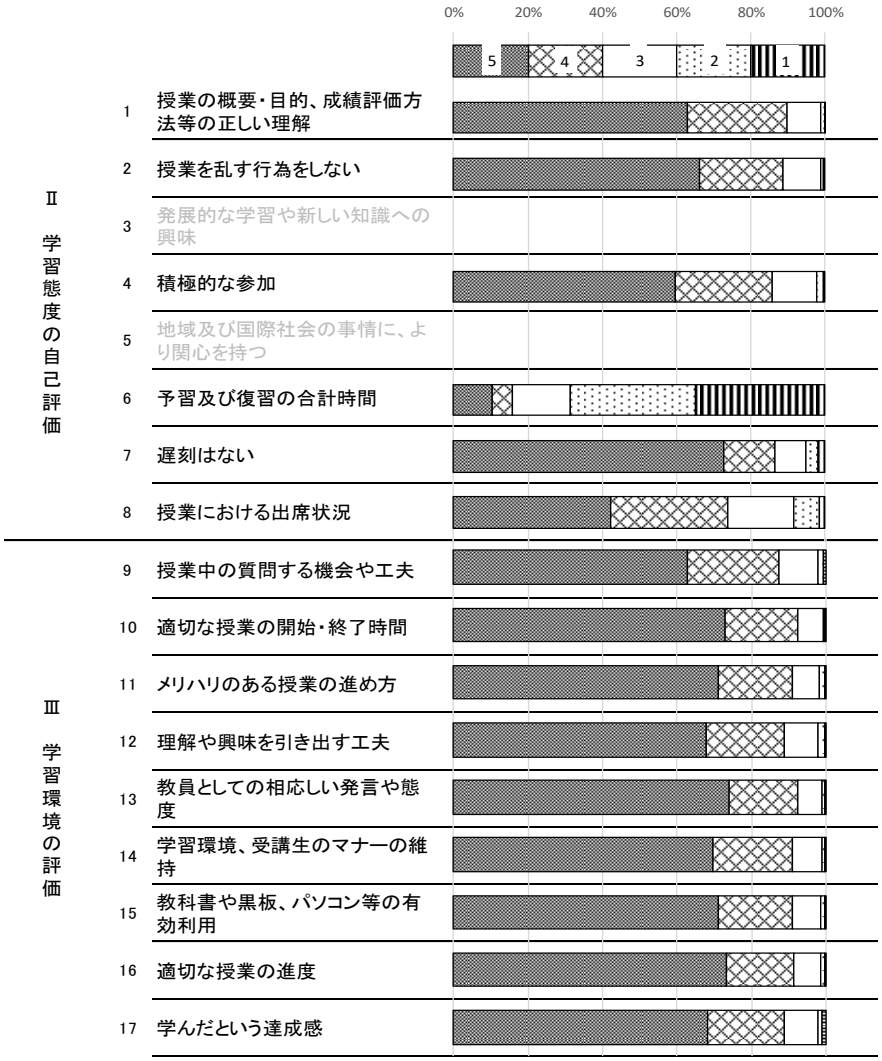


図 1　各評価の割合（全体）

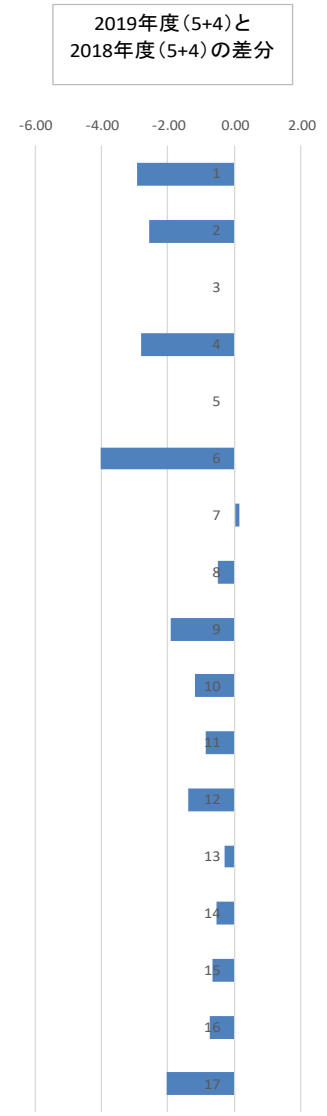


図 2　選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（全体）

図 1 より、授業への積極性を示す質問の一つである「予習及び復習の合計時間」において選択肢 4、5 が 16%と他の質問と比較しても評価が悪いことから、今後の授業の内容や実施方法の工夫が望まれる。

その他 23 項目は 80%以上あり、Ⅲ学習環境の評価のカテゴリでは 9 項目とも評価が高く似た割合になっている。

図 2 より、ほぼ全ての項目でマイナスに伸びていることが確認できる。マイナスの伸び率が大きいものとして「予習及び復習の合計時間」(-4.0%) が挙げられ、プラスに伸びているのは「遅刻はない」(+0.15) で、伸び率はわずかである。

全体を通してみると、Ⅱ学習態度の自己評価のカテゴリに入る質問で大きくマイナスに伸びていることが特徴として挙げられる。同カテゴリ内 6 項目中 4 項目が約 3%減少している。

学科名：教養教育	13 科目　22 クラス	回答数：621

▼ 教養教育

記述統計量a

Ⅰ 「学習成果」の到達度の自己評価	度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
1.知識を理解し、身につけることができた	100.0%	58.4%	30.4%	9.1%	1.9%	0.2%	4.45	.752
2.技能や表現等を身につけることができた	100.0%	56.2%	31.9%	9.6%	2.3%	0.0%	4.42	.756
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	100.0%	54.9%	30.1%	12.3%	1.8%	1.0%	4.36	.837
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	100.0%	61.3%	26.7%	9.4%	1.8%	0.8%	4.46	.801
Ⅱ 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	100.0%	67.8%	22.7%	7.7%	1.4%	0.3%	4.56	.726
2.授業を乱す行為をしなかった	100.0%	71.2%	20.0%	7.9%	0.5%	0.5%	4.61	.696
3.授業に積極的に参加した	100.0%	66.2%	22.6%	9.4%	1.3%	0.5%	4.53	.758
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	100.0%	9.7%	4.8%	10.5%	33.1%	41.9%	2.07	1.259
5.授業での遅刻はなかった	100.0%	76.7%	13.9%	6.0%	2.1%	1.3%	4.63	.798
6.授業における出席状況（今日現在）	100.0%	41.5%	32.5%	18.4%	5.6%	1.9%	4.06	.998
Ⅲ 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	100.0%	61.0%	26.5%	9.5%	1.3%	1.8%	4.44	.853
8.授業の開始・終了時間は適切であった	100.0%	77.3%	17.3%	4.8%	0.5%	0.2%	4.71	.593
9.授業の進め方にメリハリがあった	100.0%	77.2%	17.0%	4.5%	0.8%	0.5%	4.70	.640
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	100.0%	72.7%	17.8%	6.8%	1.6%	1.1%	4.59	.781
11.教員として相応しい発言や態度であった	100.0%	77.6%	16.0%	4.7%	1.1%	0.6%	4.69	.674
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	100.0%	73.9%	19.3%	5.5%	1.0%	0.3%	4.66	.658
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	100.0%	75.0%	16.6%	6.3%	1.1%	1.0%	4.64	.736
14.授業の進度は、適切であった	100.0%	77.1%	15.0%	5.8%	1.1%	1.0%	4.66	.724
15.学んだという達成感が得られた	100.0%	71.9%	17.6%	7.1%	1.8%	1.6%	4.56	.830

a.学科＝教養教育

質問 4 の回答欄（⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間）

質問 6 の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

教養教育の科目では、ほぼ全ての平均値が 4.0～4.7 であり、総じて学生からの評価が高い。

Ⅰのカテゴリでは 4 項目の平均値も高く、「評価 4、5」の割合も全体の結果と同様 85%以上と大きい。

Ⅱのカテゴリでは、「予習及び復習の合計時間」の平均値（2.06）が非常に低い。さらに当該質問に対して 0 時間と回答した割合が約 42%と非常に高い。また、同じカテゴリの他の質問と比較しても明らかな差があることから、学生の予習復習時間の改善が難しいことがわかる。学生のやる気の問題ではなく、仕組み自体の改善が必要であろう。

Ⅲのカテゴリではすべての項目において、4.4 以上であった。特に「授業の開始・終了時間」、「授業の進め方」、「教員としての発言や態度」、「授業の進度」、これら 4 つの質問に対してはそう思う（選択肢 5）とした回答が 77%以上であり授業の運用についての評価は高いといえる。

▼教養教育（グラフ）

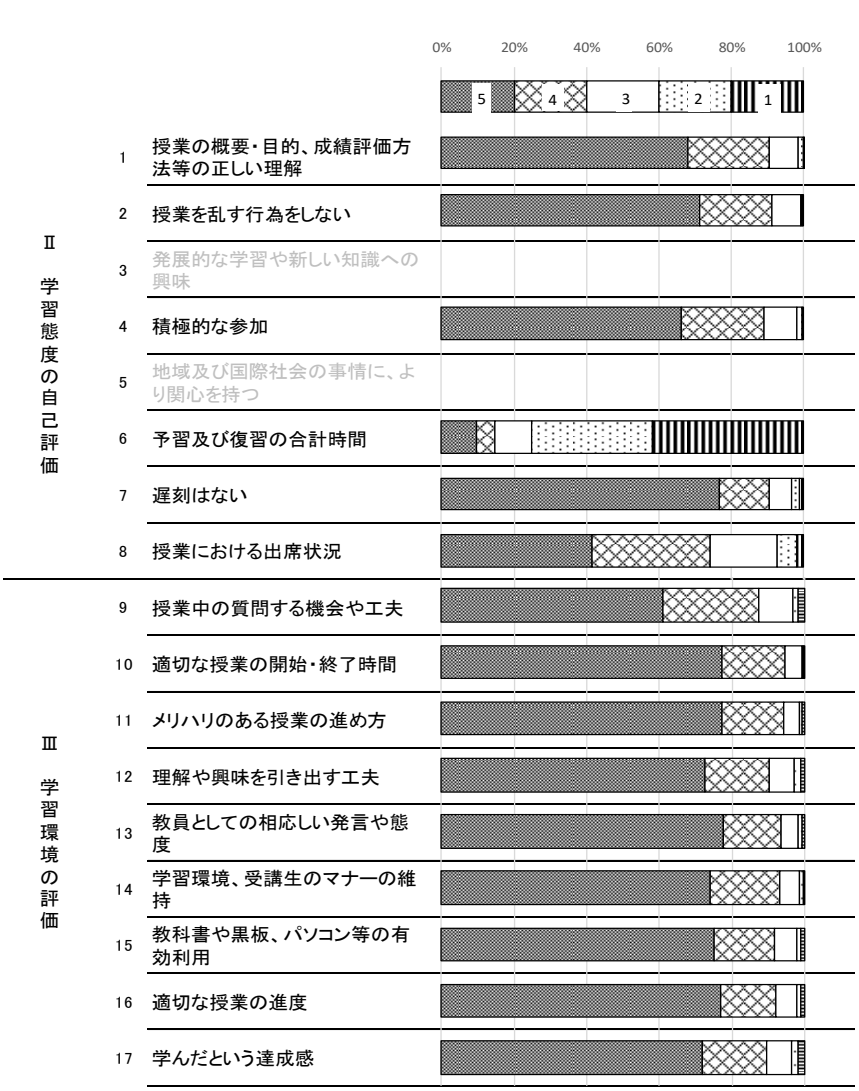


図 3　各評価の割合（教養教育）

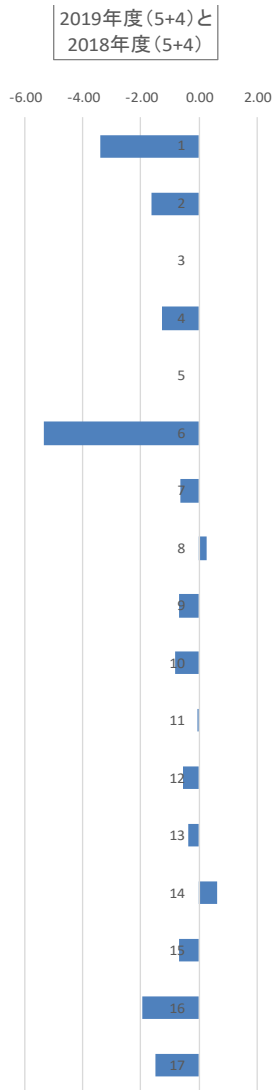


図 4　選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（教養教育）

図 3 より、ほぼ全ての項目で選択肢 4、5 が 70%以上あり、評価が高いといえる。他方「予習及び復習の合計時間」の項目では評価 1、2 の割合が高いことがわかる。

図 4 から、ほとんどの項目で前年度同期と比較してマイナスに伸びていることがわかる。15 項目ある質問のうち、前年度と比較して改善しているのは、2 項目（「授業の出席状況」（+0.28%）「学習環境、受講生のマナーの維持」（+0.63%））で、その伸び率もわずかであった。マイナスの伸び率が大きかったものは「予習及び復習の合計時間（-5.36%）」であった。

学科名：英語科	22 科目　24 クラス	回答数：474

▼ 英語科

記述統計量a

	度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
Ⅰ 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	100.0%	52.7%	33.8%	11.3%	1.9%	0.4%	4.36	.789
2.技能や表現等を身につけることができた	100.0%	51.2%	31.8%	14.4%	1.7%	0.8%	4.31	.841
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	100.0%	51.2%	28.8%	16.0%	3.0%	1.1%	4.26	.906
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	100.0%	57.3%	24.4%	14.9%	2.8%	0.6%	4.35	.877
Ⅱ 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	100.0%	62.9%	25.5%	9.5%	1.5%	0.6%	4.49	.778
2.授業を乱す行為をしなかった	100.0%	57.4%	25.8%	13.8%	2.5%	0.4%	4.37	.845
3.授業に積極的に参加した	100.0%	55.1%	26.2%	15.1%	3.0%	0.6%	4.32	.882
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	100.0%	10.6%	7.8%	22.4%	41.4%	17.8%	2.52	1.183
5.授業での遅刻はなかった	100.0%	62.7%	16.2%	10.9%	7.5%	2.8%	4.29	1.098
6.授業における出席状況（今日現在）	100.0%	30.9%	29.0%	25.4%	11.4%	3.2%	3.73	1.112
Ⅲ 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	100.0%	63.7%	22.4%	9.9%	3.2%	0.8%	4.45	.859
8.授業の開始・終了時間は適切であった	100.0%	74.1%	16.5%	7.8%	1.3%	0.4%	4.62	.720
9.授業の進め方にメリハリがあった	100.0%	71.7%	17.1%	7.6%	2.3%	1.3%	4.56	.832
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	100.0%	66.6%	17.8%	11.6%	3.2%	0.8%	4.46	.880
11.教員として相応しい発言や態度であった	100.0%	75.5%	15.9%	7.8%	0.4%	0.4%	4.66	.678
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	100.0%	67.7%	20.0%	10.8%	0.8%	0.6%	4.53	.769
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	100.0%	72.4%	15.4%	10.3%	1.3%	0.6%	4.58	.777
14.授業の進度は、適切であった	100.0%	72.8%	15.6%	8.2%	2.5%	0.8%	4.57	.815
15.学んだという達成感が得られた	100.0%	63.8%	19.2%	12.5%	2.5%	1.9%	4.41	.934

a.学科＝英語科

質問 4 の回答欄（⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間）

質問 6 の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

英語科の科目は、25 項目中 23 項目において平均値が 4.2 以上と、総じて学生からの評価は高い。

Ⅰのカテゴリでは、いずれの項目においても選択肢 4、5 が 80%以上と自己評価は高い。

Ⅱのカテゴリでは、「予習及び復習の合計時間」の平均値が 2.52 と低いものの、「0 時間」と回答した割合（17.8%）前年度同期（20.1%）より下がっており、改善傾向が続いている。「授業の出席状況」に対する質問では、平均値は 3.73 と低いものの、出席率 80%以上と回答している割合が 85%であり、授業への積極性が確認できる。

Ⅲのカテゴリでは 9 つの全ての項目が、平均値が 4.4～4.6 の範囲内にあり、さらに選択肢 4、5 が 80%以上あることから、授業の運営方法については学生の評価が高いといえる。

▼英語科（グラフ）

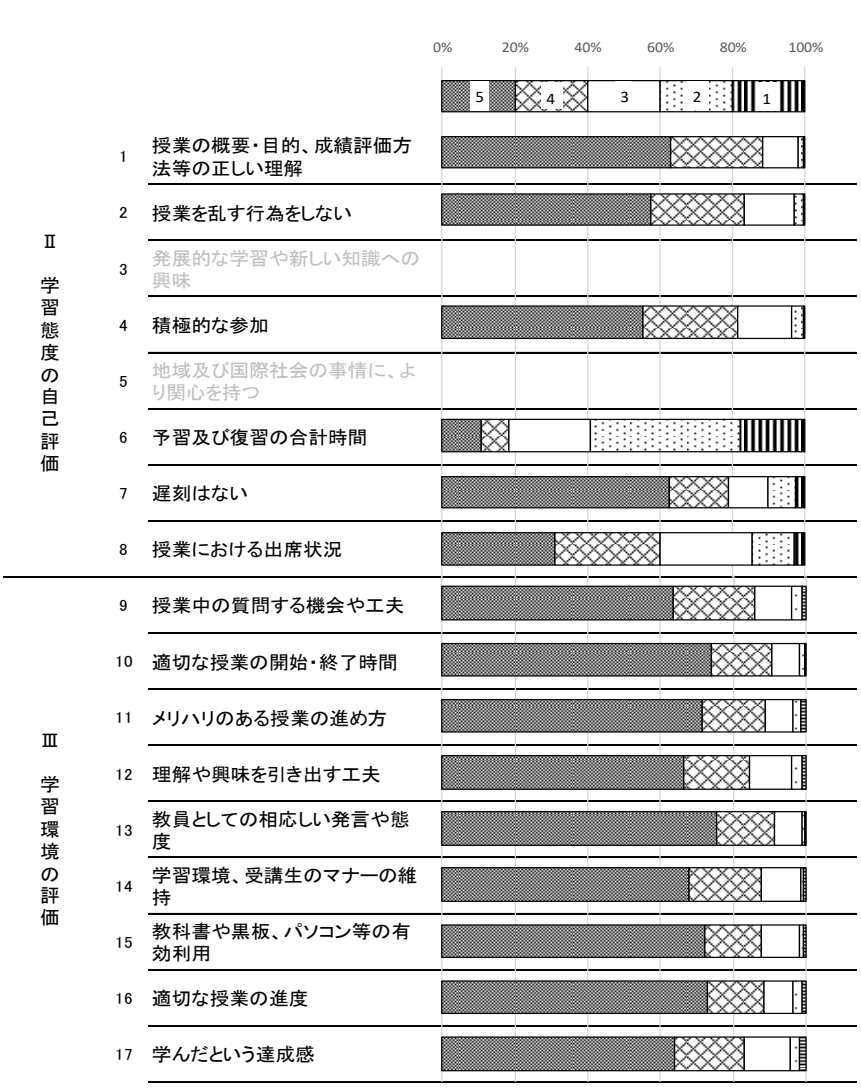


図 5　各評価の割合（英語科）

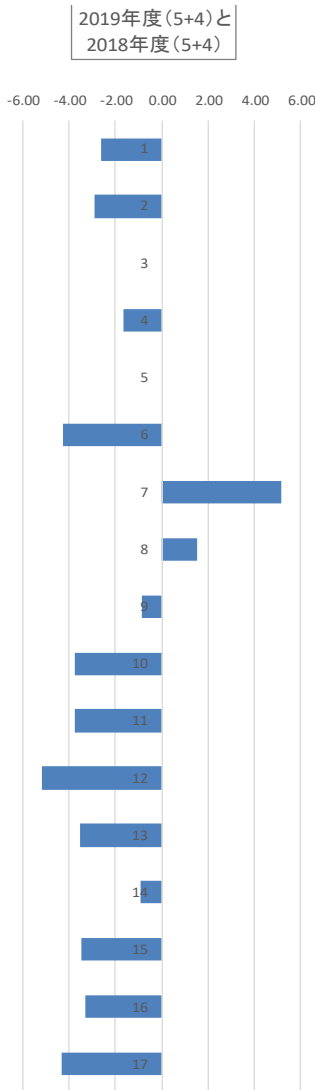


図 6　選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（英語科）

図 5 から、15 項目のうち 14 項目が「選択肢 5、4」の割合が 60%以上であり、項目全体を通して評価が高いことがわかる。対して割合の低い項目は「予習及び復習の合計時間」（18%）のみであった。さらに当該質問で「0 時間」と回答した割合は 17.8%であったものの、前年度同期（20.1%）よりわずかだが減少している。

図 6 から、15 項目のうち、プラスに伸びているのが 2 項目あることがわかる。特に「遅刻はなかった」という質問では、前年度同期より+5.13 と大きな改善がみられる。

しかし、マイナスに伸びている項目も多く、特に大きな伸び率を示しているのが「理解や興味を引き出す工夫」（-5.2）であった。同様にカテゴリⅢの項目では、すべての質問で前年度同期よりマイナスの伸び率を示している。

学科名：保育科	29 科目　82 クラス	回答数：1,867

▼ 保育科

記述統計量a

	度数	5	4	3	2	1	平均値	標準偏差
Ⅰ 「学習成果」の到達度の自己評価								
1.知識を理解し、身につけることができた	100.0%	55.1%	34.7%	9.8%	0.4%	0.1%	4.44	.689
2.技能や表現等を身につけることができた	100.0%	50.4%	36.6%	12.5%	0.5%	0.0%	4.37	.718
3.自身や周囲の問題提起・課題解決ができるようになった	100.0%	51.9%	35.4%	12.0%	0.6%	0.2%	4.38	.730
4.自ら主体的に学ぶ意欲、課題に取り組む意欲が増した	100.0%	56.2%	31.2%	11.6%	0.8%	0.2%	4.42	.740
Ⅱ 学習態度の自己評価								
1.授業の概要や目的、成績評価の方法など理解できた	100.0%	61.1%	28.6%	9.4%	0.9%	0.0%	4.50	.702
2.授業を乱す行為をしなかった	100.0%	66.8%	22.5%	9.6%	0.5%	0.6%	4.54	.739
3.授業に積極的に参加した	100.0%	58.4%	27.3%	12.2%	1.6%	0.4%	4.42	.796
4.1週間あたりの予習及び復習の合計時間	100.0%	10.6%	5.2%	15.6%	31.5%	37.2%	2.20	1.283
5.授業での遅刻はなかった	100.0%	73.8%	13.3%	8.2%	2.7%	2.0%	4.54	.905
6.授業における出席状況（今日現在）	100.0%	45.5%	31.8%	15.4%	5.9%	1.3%	4.14	.972
Ⅲ 学習環境の評価								
7.授業中、質問する機会や工夫があった	100.0%	63.3%	24.5%	10.9%	1.1%	0.2%	4.50	.745
8.授業の開始・終了時間は適切であった	100.0%	71.4%	20.9%	7.2%	0.4%	0.2%	4.63	.650
9.授業の進め方にメリハリがあった	100.0%	69.0%	21.8%	7.8%	1.3%	0.1%	4.58	.695
10.理解や興味を引き出すよう工夫されていた	100.0%	66.5%	22.8%	9.3%	1.2%	0.2%	4.54	.727
11.教員として相応しい発言や態度であった	100.0%	72.7%	19.6%	7.1%	0.5%	0.1%	4.64	.646
12.十分な学習環境、受講生のマナーが保たれていた	100.0%	68.9%	21.9%	8.3%	0.9%	0.1%	4.59	.682
13.教科書や配付資料、黒板やパソコン等の有効利用	100.0%	69.7%	21.7%	7.5%	1.0%	0.1%	4.60	.676
14.授業の進度は、適切であった	100.0%	71.9%	20.2%	7.3%	0.6%	0.1%	4.63	.648
15.学んだという達成感が得られた	100.0%	68.3%	21.5%	8.9%	0.8%	0.5%	4.56	.727

a.学科＝保育科

質問 4 の回答欄（⑤3 時間以上、④3 時間程度、③2 時間程度、②1 時間程度、①0 時間）

質問 6 の回答欄（⑤皆出席、④90%程度、③80%程度、②70%程度、①60%以下）

保育科の科目は、25 項目中 24 項目で平均値が 4.1 以上と、総じて学生からの評価は高い。

Ⅰのカテゴリでは、選択肢 5「大いにそう思う」と回答した割合が 50%以上である傾向が 4 項目すべてにみられる。このことから、達成度の自己評価は高いといえる。

Ⅱのカテゴリでは、6 項目中 5 項目で平均値 4.1 以上であった。選択肢の割合をみても、評価が高く、授業に積極的な様子が伺える。しかし「予習及び復習の合計時間」については、対象的に評価が低くなる。平均値は 2.2 と低く、さらに「0 時間」と回答した割合は 37.2%と高いものの、前年度同期（39.3%）と比較すると、わずかだが減少している。

Ⅲのカテゴリでは 9 つの全ての項目について、平均値が 4.5 以上あり、選択肢 5「大いにそう思う」の割合が約 70%以上あることから、授業の運営方法について学生の評価は非常に高いといえる。

▼保育科（グラフ）

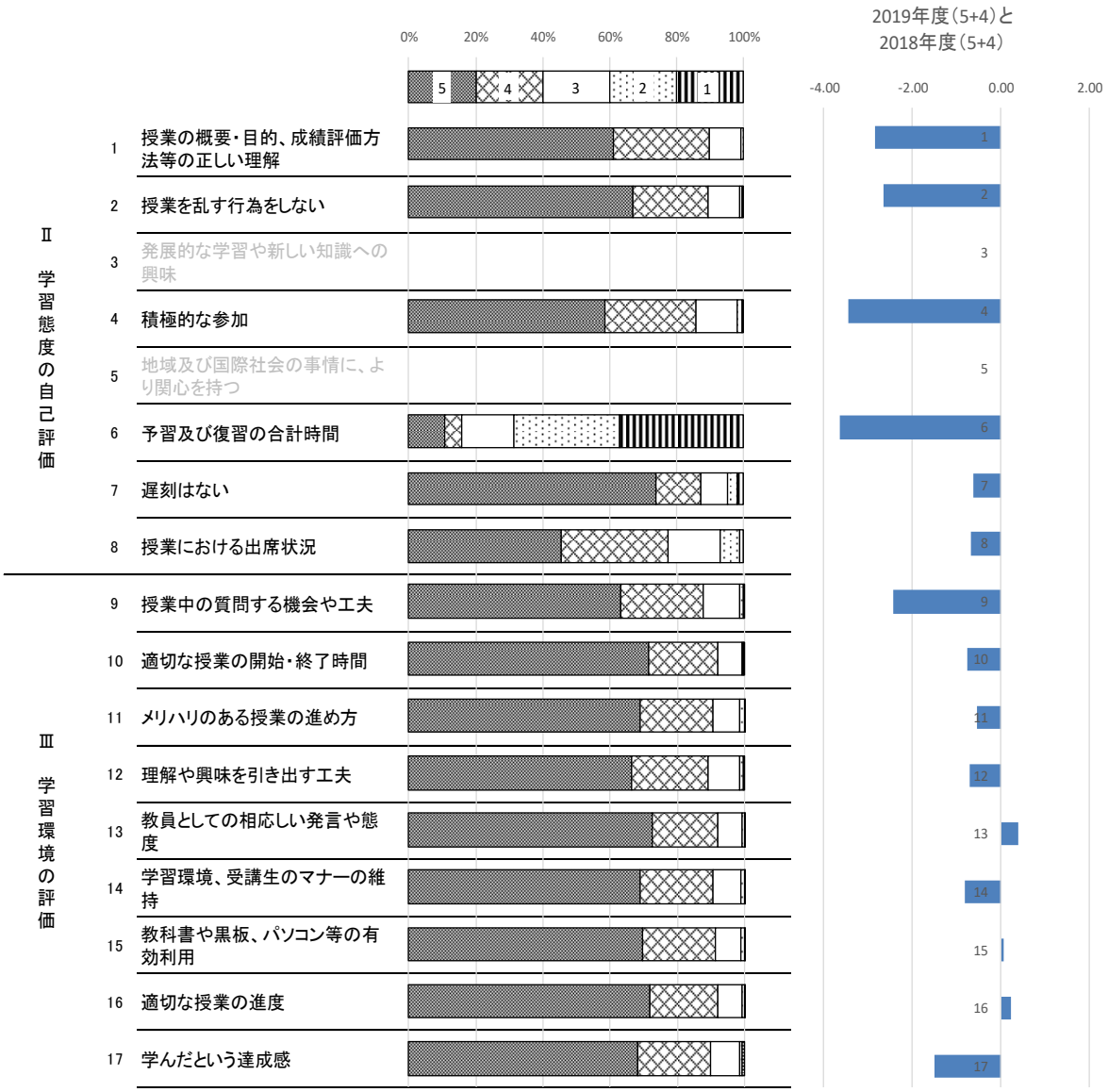


図 7　各評価の割合（保育科）

図 8　選択肢 5 及び 4 の割合の前年度同期との差分（保育科）

図 7 から、15 項目中 13 項目において「選択肢 5、4」が 80%以上あり、自身の学習態度、学習環境について評価が高い。しかし、「予習及び復習の合計時間」については、評価は非常に悪いことがわかる。

図 8 から、15 項目中多くがマイナスに伸びていることがわかる。プラスに伸びているのは、「教員としての相応しい発言や態度」「教科書や黒板、パソコンの有効利用」「適切な授業の進度」の 3 項目で、伸び率もわずか（+0.4 以下）であった。対して、マイナスの伸び率は大きく、特に「学習態度の自己評価」のカテゴリにて多くみられる。特に「予習及び復習の合計時間」の項目でマイナスの伸び率が大きい（-3.63）。「0 時間」と回答した割合は減少しているが、「3 時間以上」勉強しているとする回答の割合も同じく減少していることから、その間の「1～2 時間程度」の学習時間を常とする学生が相当数いることが伺える。

今回の授業評価アンケートの分析を通して次の 2 つのことが挙げられる。

1. 学習環境の「仕組み」つくり

例年の課題として、予習・復習・課題を含む学習時間の少なさが挙げられる。

特に、短大は 2 年間という短い期間で多くのことを学ばなければならず、学生自身の中でも卒業して社会にでるまでに、育成していくことも多様にある。そのなかで「時間の有効活用」という意味でも、授業以外で行う学習時間というのは、貴重であり必要なことである。

しかし、その学習時間の改善は、一朝一夕でできるものではなく、また学生の自主性や努力だけで語られるべきものでもないということは明白である。（これまでの授業評価アンケートの結果において、「学習環境」の改善が「学習時間」の改善と比例していない。）

この課題に対する改善策としては、反転授業といったアクティブラーニングの授業を多く取り組むことが有効と考えられており、加えて個々の教員に任されるのではなく、学科単位、大学単位で FD の役割として、「仕組み」を構築することがより有効であると考える。

2. ルーブリックの普及

前年度に評価基準を明確にすることについて述べたが、2019 年度になって、評価の割合をチェックする、ルーブリックのさらなる導入など、徐々にその環境は整いつつある。今度は、ルーブリックを学生へ周知徹底し、積極的に学生に使ってもらうことと思われる。加えて、当該ルーブリックの使用を通して PDCA を続けることで、「学生主体の学び」を作っていくことができると思われる。

2. 自由記述による評価

学生の自由記述について、テキストマイニングにより単語の出現頻度、共起キーワードを示すことで、学生の授業に対する考えを視覚化した。今回は「授業評価アンケート」に対する記述のため、「授業」「先生」という単語は当然頻出するものとして、その他の単語について着目する。

単語の出現頻度：文章中に出現する単語の頻出度を表にしたもの。「スコア」の大きさは、文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どのような種類の文書にも現れやすいような単語についてはスコアが低めになる。

共起キーワード：文章中に出現する単語の、出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共起[1]の程度が強い語ほど太い線で描画されます。

【教養教育】

＜単語の出現頻度＞

名詞	スコア	出現頻度
授業	64.21	62
先生	8.92	36
キリスト教	79.07	20
内容	4.25	17
勉強	0.88	10
スポーツ	3.37	8
毎回	0.98	8
講義	5.10	7
色々	2.18	7
興味	0.73	7
声	0.23	7
説明	0.93	6
野間	13.63	5
考え方	2.09	5
レポート	1.53	5

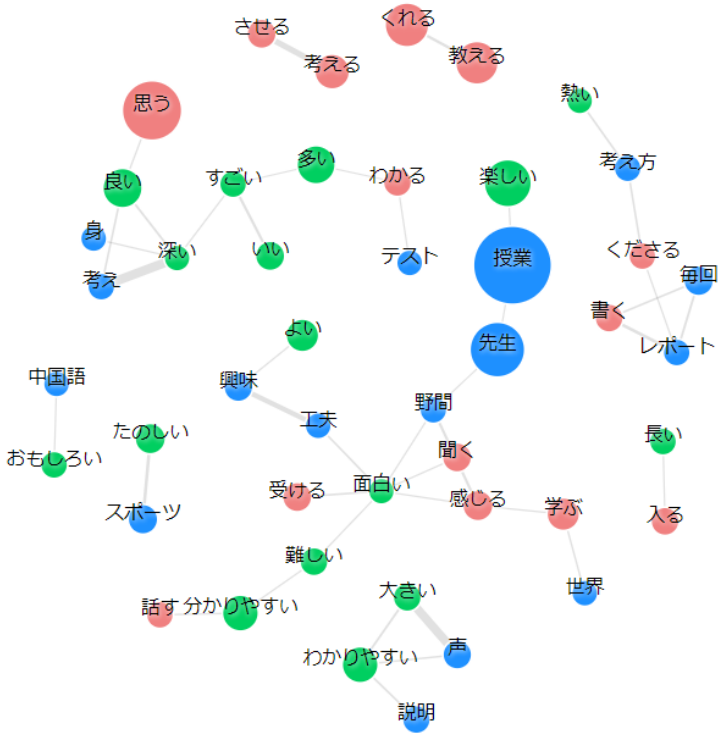
動詞	スコア	出現頻度
思う	0.62	33
できる	0.85	26
くれる	0.43	19
教える	2.01	18
考える	0.35	11
学ぶ	3.86	9
感じる	0.27	7
知る	0.12	7
学べる	9.37	6
させる	0.66	6
受ける	0.47	6
分かる	0.14	6
聞く	0.09	6
書く	0.13	5
入る	0.06	5

形容詞	スコア	出現頻度
楽しい	1.12	22
良い	0.31	15
多い	0.57	14
分かりやすい	12.24	12
わかりやすい	8.33	12
よい	0.17	9
たのしい	1.65	7
ほしい	0.15	7
いい	0.03	6
大きい	0.27	5
難しい	0.20	5
おもしろい	0.50	4
長い	0.18	4
すごい	0.04	4
興味深い	1.75	3

右端の形容詞群において、「楽（たの）しい」「良（よ）い」「多い」「分（わ）かりやすい」が出題頻度が高く、肯定的なコメントが多いことがわかる。真ん中の動詞群では「思う」「できる」「くれる」「教える」が出題頻度が高い。左端の名詞群で「授業」「先生」が上位にあることから、これらに対する満足度が高いことが考えられる。また、スコアに注目すると「キリスト教」「学べる」「分（わ）かりやすい」の 3 つが高いスコアを持つ。否定的な動詞、形容詞群がほぼないことを考慮すると、本学の特徴といえるキリスト教科目で学生の理解が深まっているといえる。

[1]共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。

＜共起キーワード＞



前述した頻出単語の共起回数によって円の大きさや、単語をつなぐ線の太さが異なっている。共起キーワードをみると、前年度と同様、「授業」と最も共起回数の多い単語は、「楽しい」であった。また「先生」も多く、それに連なって、面白い、興味、よいといった好意的単語がある。共起関係の強いものとして、「考え」-「深い」、「考える」-「させる」の組み合わせがあり、アクティブラーニングの実施ととれる組み合わせがみられる。

【英語科】

＜単語の出現頻度＞

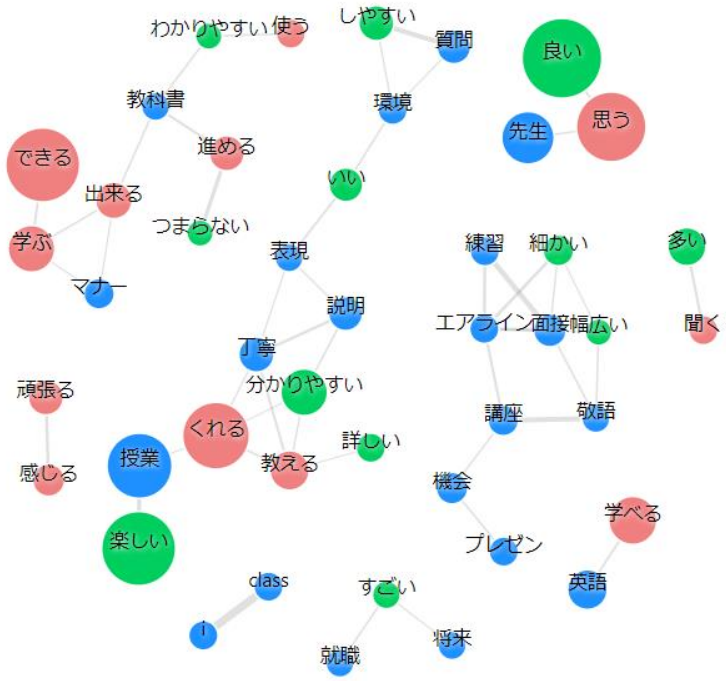
名詞	スコア	出現頻度
授業	24.72	36
先生	4.41	25
勉強	1.95	15
英語	5.01	14
丁寧	4.31	10
質問	2.25	9
説明	2.04	9
面接	3.90	8
単語	3.59	7
機会	0.90	7
講座	4.78	6
マナー	3.18	6
皆	0.60	6
元気	0.30	6
エアライン	23.68	5

動詞	スコア	出現頻度
できる	1.54	35
思う	0.58	32
くれる	1.07	30
学べる	46.01	17
学ぶ	11.06	16
教える	0.76	11
出来る	0.22	9
進める	1.75	8
分かる	0.24	8
頑張る	0.14	8
感じる	0.20	6
知る	0.09	6
受ける	0.33	5
話す	0.18	5
もらう	0.08	5

形容詞	スコア	出現頻度
良い	2.04	39
楽しい	2.80	35
分かりやすい	19.92	16
よい	0.30	12
多い	0.29	10
しやすい	3.74	8
難しい	0.39	7
いい	0.04	7
細かい	1.21	5
詳しい	0.35	4
面白い	0.06	4
速い	0.58	3
すごい	0.02	3
幅広い	0.96	2
騒がしい	0.92	2

右側の形容詞群では「良い」「楽しい」の出現頻度が他の単語と比べて相当高い。中央の動詞群では「できる」「思う」「くれる」の単語の出現頻度が高い。左端の名詞群では「授業」が非常に多く、次に「先生」が多い、前年度と違う点はその次の「英語」との間に「勉強」が入っていることである。授業が楽しい、というイメージは前年度と同様であるが、スコアの面で「学べる」「分かりやすい」の単語が特徴的な単語として出ている点で、学生の成長が感じられる結果となっている。

＜共起キーワード＞



今回は、今までと異なり、「英語」についてのワードは少なく、特定の科目のワードが出現している。また、そのワードの共起ワードとして、多くの名詞が出現していることから、社会と接点をもった科目に対する意識が強いことが読み取れる。

概ね、好意的なワードが多く、満足度が高いといえる。「授業」にひもづくワードで「楽しい」「くれる」があり、教員の授業構成の工夫がうまくいっている様子が伺える。

【保育科】

＜単語の出現頻度＞

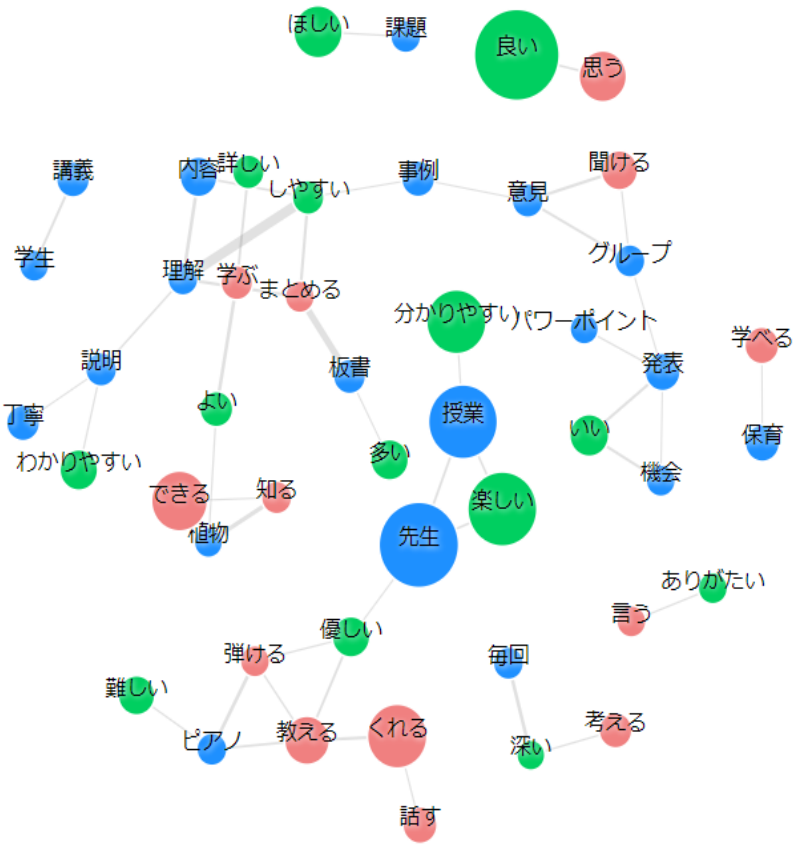
名詞	スコア	出現頻度
先生	21.37	57
授業	38.23	46
内容	2.53	13
発表	2.65	11
保育	19.09	10
事例	18.03	9
講義	7.95	9
丁寧	3.54	9
板書	33.73	8
実習	6.55	8
意見	1.49	7
説明	1.26	7
保育士	6.42	6
ピアノ	1.53	6
課題	1.06	6

動詞	スコア	出現頻度
くれる	1.00	29
できる	0.85	26
思う	0.21	19
教える	1.79	17
聞ける	3.40	10
学べる	14.79	8
話す	0.46	8
分かる	0.24	8
考える	0.14	7
学ぶ	1.80	6
使う	0.08	6
わかる	0.07	6
知る	0.06	5
弾ける	1.68	4
知れる	0.64	4

形容詞	スコア	出現頻度
良い	3.34	50
楽しい	3.13	37
分かりやすい	52.21	29
ほしい	1.25	20
いい	0.11	12
わかりやすい	7.12	11
優しい	1.13	11
多い	0.35	11
難しい	0.80	10
よい	0.10	7
しやすい	2.18	6
詳しい	0.78	6
見やすい	2.72	4
ありがたい	0.30	4
大きい	0.17	4

右端の形容詞群では「良（よ）い」「楽しい」「分かりやすい」といった肯定的ワードの出現頻度が高い。真ん中の動詞群では「くれる」「できる」「思う」「教える」の出現頻度が高く、やや受け身なワードが多いものの、学習者本位のワードも多くみられる。左端の名詞群では「先生」「授業」が非常に出現頻度が高く、これは例年と同様の傾向である。

＜共起キーワード＞



共起キーワードの関係をみると、大きく 2 つのグループに分けられる。「授業」や「先生」に連なるグループ（以降、先生グループとする）と、「理解」や「事例」に連なるグループ（以降、理解グループとする）である。

先生グループは「優しい」「楽しい」「分かりやすい」というワードに紐付けられている。理解グループでは、「理解」と「しやすい」が非常に共起が強く表れている。また、その周辺に理解を促すためのポイントになるワードがいくつかあり、学生の理解に寄与するための工夫が伺える。